NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

とちぎの未来をつくる チャレンジを育む





Tochigi Youth Supporters Network*

VISION -目指すべき社会-

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

MISSION -社会的使命-

若者の社会を担う力と想いを高め、よりよい未来を創るチャレンジを育む

CONCEPT -視点-

【現場】社会を創る実践者や課題と、若者とのリアルな接点

【役割】必要とされるチャレンジの場

【現場】若者のチャレンジを支え合うソーシャルキャピタル

未来・可能性 希望の創造 現状を突破するヒント 社会の活性化、新陳代謝

チャレンジの意義

個の力の発揮・社会認識 当事者意識・絆・仲間 人の大切さ・意欲・自信 責任感・自己成長

CONTENTS

3	組織概要・TEAMユーススタッフ・2012年度を振り返って
4	活動報告(CHALLENGEを創る事業)
	(1) · · · GENBA CHALLENGE
5	(2) ···iDEA→NEXT
6	(3)・・・被災地の仕事づくりを加速させる。
	若者による復興支援グッズの販路拡大と新商品の開発プロジェクト
	(4)・・・とちぎ学生未来創造会議(共催事業)
7	(5)・・・トチギ遊学
	(6) · · · NPO's CAFE
8	活動報告(CHALLENGEを支える事業)
	(7)・・・NPOマネジメント強化
	(8)・・・中退による社会的孤立防止プラットフォーム
9	(9)・・・ホン de チャレンジ
1 0	活動実績
	・参加者数等・情報発信・メディア掲載
1 1	TEAMユースメンバーズ
	・メンバーの声・支えてくださっている団体・企業のみなさま
1 2	財務報告
	・活動計算書
1 3	・賃借対照表・財産目録

組織概要

団体名: 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク(愛称:TEAMユース)

代表者: 岩井 俊宗

栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F 住所 : Tel/Fax: 028-612-3341 E-mail: ysn office@tochigi-ysn.net

(任意団体) 2008年7月1日 (法人化) 2010年4月1日 設立

スタッフ体制: 常勤2名、非常勤1名

会員数: 正会員32名、賛助会員8名、賛助会員(団体/企業)4社

理事/役員:

代表理事 岩井 俊宗 (NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事) 副代表理事 (NPO法人トチギ環境未来基地 代表理事) 塚本 竜也

理 事 榎本 竹伸 (一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター 理事長) 理 事 (株式会社キッズコーポレーション 代表取締役) 大塚 雅斗

小久保 行雄 (有限会社ドンカメ 代表取締役) 玾 事

玾 事 中野 謙作 (一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長)

理 事 野崎 千晶 (株式会社ティビィシィ・スキヤツト チーフキャリアアドバイザー) 理 事 古河 大輔 (NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク事務局長)

理 事 横松 陽子 (NPOとちぎユースワークカレッジ 代表)

(NPO法人チャレンジド・コミュニティ 監 事 金井 光一 代表理事)



TEAMユーススタッフ

【常勤スタッフ】



代表理事 岩井 俊宗

宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティア コーディネーターとして宇都宮市民活動サ ポートセンター入職。NPO・ボランティア支 援、個別SOSに従事。08年若者の成長の機会 創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者 による社会づくりの促進を目的に当会を設立。 その他、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員等。

【担当事業】GENBA CHALLENGE、とちぎ学 生未来創造会議、NPOマネジメント強化 他



理事・事務局長 大輔 古河

大学卒業後、名古屋でインテリアコーディ ネーターとして4年間勤務。その後青年海外 協力隊(村落開発普及員)として南米ボリビアに 赴任し、収入向上プロジェクトや植林などの 環境保全活動に従事。誰もが地域のプロ デューサーとなる多様性溢れる地域社会を目 「とちぎユースワークカレッジ」の職 員を経て現職。

【担当事業】iDEA→NEXT、トチギ遊学、復興 支援プロジェクト 他

【非常勤スタッフ・理事】横松 陽子

【インターン】小野寺 真里、菊地 雄太、高橋 秀哉、逸見 栞、森 雄史

【ボランティアスタッフ】一迫 和歌奈、枝川 尚樹、岡田 浩、奥田 裕之、郷間 梨々加、狐塚 寿浩、高橋 巧、冨樫 奈美子 富川 美咲、長尾 守人、二瓶 賢人、根岸 良美、濱野 将行、船田 貴久、水沼 慎、望月 千登勢 望月 萌、山本 真吾



\star 2012年を振り返って

社会を自らより良くしていきたいと挑戦する若者がいる。 若者の可能性を信じ続ける先輩がいる。

2012年を数字で振り返ってみると、プログラム参加者1486名(のべ)、活動時間(人数×プログラム提供時間)7008時間を 実施してきました。40名の会員と49人の寄付者、24社の協賛企業、そして214名(のべ)のボランティア等の協力者のご 支援があり、実施できましたことを、心より感謝申し上げます。

この数字には、一人一人の想いの詰まった物語があります。

仮設住宅で暮らす方の手作り商品の販売を通じて復興支援活動を創り継続している若者、海岸林を再生させる活動の寄 付の仕組みを創り出した若者、地元に戻り地域活性化に取り組み始めた若者、街の資源を若者と結びつける若者、想い を持って教育現場に入った若者、栃木に戻り仕事を始めた若者、新しく起業した若者。

想いを行動にする若者達の周りを見てみると、必ずそこに彼らと本気で向き合う先輩がいます。先輩との対話の中で、 若者は未来と社会を創る確かな一歩を踏み出しています。

"挑戦する若者×可能性を信じる先輩"は、社会の希望であり、社会の財産であると思います。

設立より6年目となる2013年は、より一層、皆様のお力を借りながら、挑戦する若者と可能性を信じる先輩方との化学 反応による創造を加速させていきます。そして、若者が力を発揮し、ワクワクと安心を実感できる地域社会づくりを進 めて参ります。

> 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗



実践型インターンシップ 「GENBA CHALLENGE」

次のよき社会へ若者の想いと実行力を高めるための挑戦と成長

企業・団体の次の一手など仕事を創る現場のプロジェクトに参画し、価値創造に貢献するインターンシップ。成長意欲のある若者には、"より本質的な力"を、受入企業・団体様には、"社内の変化と新たな価値"を創造しています。

※インターンシップ…

「自らの専攻や将来のキャリアと関連した分野において、主体的役割を果たす事を通じて社会的価値を創造していく精神と力を身につけ、学生生活及び自立的キャリアデザインにフィードバックすること」(当会の定義)



▼ 地域×若者フォーラム

-地域に若者を巻き込む10のコト-

日時:1/12(土)

場所:宇都宮大学UUプラザ

内容:事例報告(NPO法人トチギ環境未来基地/とちぎ学生 未来創造会議/とちぎ手仕事支援プロジェクト)、パネル ディスカッション(塚本竜也氏/大石剛史氏/菊地雄太氏)

参加者:37名

▼ 実践型インターンシップ成果報告会

日時:1/12(土)

場所:宇都宮大学UUプラザ

内容:苗木forいわきプロジェクト成果報告 (インターン生:郷間梨々加氏)

参加者:25名









プロジェクト数: 8

※うち4プロジェクトを実施 その他継続募集

インターンシップ参加人数:6名 延べ活動時間:1103時間 受入れ大学:宇都宮大学/白鷗大学

協力者:21名

インターンシップ プロジェクト状況

▼ 社会課題解決の最前線を発信 社会事業家インタビュー5期

受入団体: NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

期間:平成24年5月~10月

内容:県内で社会課題解決に向けて継続的に取り組む実践者への取材活動から、 社会課題の理解、実践者の想い、解決に向けた事業を広く発信するプロジェクト

参加者:菊地雄太(白鷗大学経営学部3年) 小野寺真里(宇都宮大学国際学部3年)

成果:社会事業家・ソーシャル系学生サークル取材・発信(6組)

社会事要家現場ツアーの開催(4名)

▼ 市民の力で、いわき市の海岸林を再生する 「苗木forいわき」プロジェクト

受入団体: NPO法人トチギ環境未来基地

期間:平成24年9月~12月

内容:津波、塩害で立枯れる海岸林。再生に必要な14000本のクロマツ。いわき市の海岸を守る海岸林を育ててくれる市民と苗木を購入する寄付を広げるプロ

ジェクト

参加者:郷間梨々加(自営業) 成果:継続的寄付の仕組みを構築

「たいらや」県内全24店舗に寄付箱を設置 寄付付き商品の開発(2 tree café)

▼ 社会課題解決の最前線を発信 社会事業家インタビュー6期

受入団体: NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

期間:平成24年10月~平成25年3月

内容:県内で社会課題解決に向けて継続的に取り組む実践者への取材活動から、 社会課題に理解、実践者の想い、解決に向けた事業を広く発信するプロジェク

参加者:逸見栞(宇都宮大学国際学部3年) 高橋秀哉(白鷗大学法学部3年)

成果:社会事業家・ソーシャル系学生サークル取材・発信(10組)、

若者×社会事業家交流会(参加者:21名)

▼ 使える遊休物件を探せ!物件発掘プロジェクト

受入企業:株式会社ビルススタジオ M.E.T不動産部

期間:平成25年2月~3月

内容:"ひとクセある他にはない特徴を持っている"物件を探し、その人に あった心地よい空間を提供する「ビルススタジオ」。活用できる遊休不動産を

掘り起こすプロジェクト

参加者:二瓶賢人(宇都宮大学工学部1年) 成果:新しい視点での遊休不動産を紹介(1軒)

継続募集プロジェクト

・有機農家と消費者をつなぐ「ソザイ新聞」プロジェクト 受入企業:ソザイソウザイ

・中古本で若者を応援する「ホンdeチャレンジ」寄付本調達 受入団体:NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

・路面店の強みを活かせ!地域密着型「パン屋」さんの魅力アップ 受入企業:有限会社コパン

・SB/CB支援を手掛ける中小企業診断士の右腕 受入企業:企業組合とちぎ労働福祉事業団

成果

・事業モデルを構築することができたことに加え、実践型インターンシップの成果から、受入企業・団体にとっての価値と若者が 成長する価値を感じることができた。

・実践型インターンシップに関心を持ってくれる企業や大学、行政との関わりもでき、展開のイメージを広げることができた。

課題

・実践型インターンシップに参加する学生の掘り起こし(機会の案内と一歩を踏み出すエンパワメント)が弱く、マッチングしないものがある。プロジェクトの背景や、その団体・企業の社会的価値をしっかり発信し、挑戦したくなるプログラム(プロジェクト)にしていきたい。



若者による社会を良くするアイデアプランコンテスト「 iDEA → NEXT 」

とちぎの新しい物語をつむぐ

iDEA→NEXT は、ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会を良くする活動を促進する、若者がチャレンジするステージが必要と考え、スタートしました。 また、若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場としても機能させています。



▼ 社会を良くするアイデアフォーラム

目的:アイデアの持つ力、若者一人ひとりが持つ可能性を探る

日時:11/17(土)

場所:とちぎ青少年センター アミークス

内容:第1部grennz.jp鈴木奈央さんの講演とトークセッション

第2部企画書のつくり方

参加人数:36名

▼ アイデアを生み出すワークショップ iDEA→SEED

目的:アイデアの価値やアイデアを生み出す方法を体感する

日時:11/30(金) 場所:café KANMAS

内容:アイデアとブレストを学ぶ、テーマ別アイデアブレスト

参加人数:10名





▼ iDEA→NEXT 第1次選考応募者

応募期間:10/22-12/21

応募総数:24組

第1次選考通過(ファイナリスト):10組

▼ アイデアブラッシュアップ合宿

目的:経営者などのメンターと質の高いアイデアに練り上げる機会。共にチャレンジし、切磋琢磨する仲間・サポーターの獲得

日時:1/26-27

場所:栃木県青年会館 コンセーレ

内容:ファイナリストを対象に、メンターや他の参加者とともに

アイデアを磨く研修会

協賛企業:19社 個人寄付:5名

メンター/審査員:21名

後援·協力企業/団体:18社/団体

運営/WEB/DTP/VIDEOボランティア:**10**名

▼ プレゼンテーション研修

日時: 2/14,18

場所:とちぎボランティアNPOセンターぽぽら、

とちぎユースワークカレッジ教室

内容:アイデアを発表しメンターからのフィードバックをうけ、 プレゼンテーションのポイントや人に伝えるコツをつかむ

▼ iDEA→NEXTファイナル

日時:2/23

場所:宇都宮大学 講堂 内容:ファイナリストによる プレゼンテーションおよび審査

参加人数:71名



ファイナリストとそのアイデアたち

水沼と愉快な仲間たち

「栃木×バイク=Smile! ~マイナスイメージを掛け合わせてプラスに~」

大舘仁志×新妻星也「飲めば広がる宇都宮」

菊地 雄太「Real Playing Game」

菊池 公江 「栃木を感じる絵日記の旅!!」

逸見 栞「歩いて楽しいオリオン通り」

審査員特別賞

大貫 聖子 「農家の嫁による~農家の嫁イメージアップ大作戦

国際協力学生団体トムソーヤ 佐川 想

「地域の輪。学生による安否確認・無限大の可能性を込め」

グランプリ

NPO法人日本キャットライフサポート協会 増森 ダレン「ネコの殺処分減少活動のヒーローキャラクターの考案」

はやき風株式会社 大河原 千晶「日本三大美肌の湯50℃洗いで活性化!計画」

つながりの社会 コミュニティタウン とちぎ 「つながりの社会 コミュニティタウン とちぎ〜みんな仲良しのまちを〜」

成果

・学生や若手社会人だけでなく、子育てママからの応募があるなど、初めての開催にも関わらず、24組もの応募を得ることが出来た。若者のアイデアや活動への想いを引き出すことができ、またそれを支えるメンターや地域のサポーターのみなさまがつながる機会となり、若者を育む生態系構築へ一歩前進した。

課題

・運営面での人出不足やコーディネートに難が残った。また支える協賛企業の数も当初の目標に至らず、共感を呼ぶ仕掛けも次年 度への検討材料としたい。



「被災地の仕事づくりを加速させる。

若者による復興支援グッズの販路拡大と新商品の開発プロジェクト」

若者のアイデアと行動力で、復興を応援する

被災者のいきがい・やりがい作りとして福島県の仮設避難者等によって作られた復興支援グッズの販路拡大を図ること。復興に 若者の力とアイデアを活かすこと。この2点を目的として実施。ユースワークキャンプ活動をベースに現地貢献や交流を行い、 (1) 復興支援グッズの栃木県内での販売促進や(2) イベントの開催、(3) 新商品の開発・販売を通して、復興活動を支え、 現地の方の生きがい/仕事づくりを行っていきました。また、震災を風化させないように現地の状況を広く発信しています。

▼ ユースワークキャンプinいわき

日時: 6月-3月まで各月1回(計10回/1泊2日)

場所:福島県いわき市内 参加人数:計52名

内容:復興に向けた様々な活動への参加、現地活動団体訪問等

▼ とちぎ手仕事支援プロジェクト(ふくふく)

目的:大学生を中心にした若者が、それぞれの問題意識から、栃木で出来る"買う"を通した復興支援を展開

内容:被災者の手作り商品や寄付付き商品などの商品を多くの方に

知ってもらうイベントの開催やその販路拡大

(パルコでのふくふくフェスの開催や県内のカフェへの委託販売等)

メンバー数:10名





参加人数(のべ):302人

活動時間:2116時間 イベント出店:8回

総売上個数:1,018個数 総売上金額: 268,270円 協力者(のべ):82人 取扱商品:20品目

成果

・ワークキャンプへ参加したメンバーを中心にした「とちぎ手仕事支援プロジェクト」が発足し、若者の想いや力を活かした復興 支援グッズの販売を通して、生産者の生きがいや栃木と福島とのつながりを創りだすことができた。

課題

・活動地の福島は、近いとはいえ距離が離れており、刻々と変化する現地ニーズへの対応や、生産者との関係づくり、商品のリサ-チが課題。現地の団体との連携や運営体制の強化で対応していきたい。



「とちぎ学生未来創造会議(共催事業)」

出会い・集い・語り合う

栃木県内の大学生が、大学を越えて集い、未来や社会について語りあい、地域社会への主体的な一歩を踏み出してもらうことを 目的に、国際医療福祉大学、白鴎大学、青年会館、社会福協議会、社会教育団体が構成された実行委員会となり、夏と冬に2回 の合宿プログラムを提供しました。本事業で意欲が高まり、当会のインターンシップやプログラムに参加する学生も多い。連携 した形で、大学生と社会を繋いでいる。

ミライ カタル キャンプ 2

日時:9/6(木)-7(金)

内容: "自分を開き、他者と語り合う" プログラム

参加者:28名 協力者:12名

▼ ミライ ツクル キャンプ 2

日時:1/26-27

場所:栃木県青年会館 コンセーレ

内容: "自分と社会"の関わりを感じるプログラム

「人と人との関わりが変わる楽しさを知ろう $^{\sim}$ チーム思考の整理術 $^{\sim}$ 」

(国際医療福祉大学生)

「キャリア・アップの見取り図づくり」(白鷗大学学生)

「リーダーシップ育成研修を創ってみよう!」(宇都宮大学学生)

「stop the violence 身の回りの暴力を考えよう」(宇都宮大学学生)

協力者:12名 参加者:35名





◎「とちぎ学生未来創造会議」構成

国際医療福祉大学、白鷗大学、作新学院大学、帝京大学、栃木県青年 会館、なすから教育支援ネットワーク、トチギ環境未来基地、とちぎ ユースサポーターズネットワーク 等

参加者:63名(のべ)

活動時間:1127時間(のべ)

参加大学生/宇都宮大学、国際医療福祉大学、白鷗大

学、作新学院大学、東京経済大学 他

協力者: 24名(のべ)

成果

・6年目となり、継続して実施していることで、過去の先輩との繋がりを共有できる安心感を学生に提供することができるように なっている。その他、県外大学からの参加もあり、広がっている。また社会教育や若者支援の実践的専門家が集う実行委員会で毎 回、プログラムを作りこむプロセスは、未来会議の質を高めることに加え、実行委員のプログラム開発力や運営力を高めている。

・プログラム実施後に学生の主体化や実践活動への展開などを見ることはできるが、プログラムの成果を図るスケールが必要であ 課題 る。

6



「トチギ遊学」

とちぎのヒト・モノ・コトを楽しみ、チイキで遊ぶ

新しいことをはじめたい、学びたい若手社会人を対象に、社会や地域に関わるきっかけづくりや地域を楽しみ、好きになる場づくりを目的に、「栃木県のヒト・モノ・コトを楽しみ、地域で遊ぶ」をテーマとしたワークショップを実施。また、企画運営には社会人のボランティアに参加してもらい、活動に興味がある若者に活動する機会を提供している。

▼ はたけの学校

目的:農あるくらしをコンセプトに、栃木の農と食、風土について考

えるきっかけ

日時:7/17(土)、11/17(土) (計2回)

場所: AKI農園

内容:はたけ仕事体験、有機農法を学ぶ

参加人数:計10名

▼ Men's Kitchen

目的:地のモノ、旬のモノを活かしたヒト・モノ・コトの地産地消

日時:9/14(金)、10/17(水)、11/28(水)、1/18(金)、

2/27(水)、3/6(水) (計6回)

場所:宇都宮市総合コミュニティセンター 調理実習室 他 内容:地域の料理人から地のモノ、旬のモノを活用した料理を学ぶ

参加人数:計80名





◎講師陣

AKI農園/清水彰浩氏、らあめん厨房どる屋/落合泰知氏、フォーシーズンズ壬生/高梨方明氏、パティスリーフラッグス/田中文博氏、渡辺家庭料理教室/渡辺仁子氏、ラーメン凪/大曽根悠二郎氏、プロガー/jive氏、とちぎテレビ/古内みづほ氏

参加者:90名(のべ) プログラム実施回数:8回

活動時間:210時間

企画運営ボランティアスタッフ:3名 協力者:15名

成果

・新しい取り組みに参加して、職場とは異なる方々と交流し学ぶ機会を提供でき、栃木のヒト・モノ・コトの魅力を発信できた。また企画運営に社会人ボランティアスタッフが参加する機会を提供でき、栃木を舞台にアクションを起こすプレイヤーを増やすという団体のミッションも達成できた。

課題

・広報や参加者確保が容易ではなかった。プログラムの魅力とともに、広報へかける時間や手段を検討していく。



「NPO's CAFE」

分野を越えた繋がりと創造

地域福祉、環境、若者、中間支援、文化振興、まちづくりなど、多様な現場で活躍する20、30代が集い、それぞれの現場を落ち着いて振り返り、日頃の現場の取り組みや今後の展開を共有します。

また必要としているシーズ(資源)を公開して、メンバー間でのマッチングを図っており、その中からメディアとの連携などが生まれています。

▼ NPO's CAFE

目的:現場の振返りと分野を越えた連携の模索。ソーシャルキャピ

タルの創造

日時:5/22(火)、7/14(火)、9/18(火)、11/12(火)、2/26(火)、

(計5回)

場所:café Mario

内容:参加者の取り組みの共有。ニーズとシーズの共有

参加人数:計45名









プログラム実施回数:5回 参加者:45名(のべ) 活動時間:764時間(のべ) 協力者:3名(のべ)

成果

・活動分野の違う同世代を出会う機会は少ないため、参加者からは必要性は感じた。また実際に連携が創出できた。

課題

・参加者の広がりの展開が想定よりも反応が鈍かった。



栃木県新たな担い手支援事業 「 NPOマネジメント強化 」

社会課題解決を目指すNPOのミッション実現と持続性向上のために

社会課題解決に取り組む先駆的実践をゲストに迎え、理事・職員が役割の違いを越えて、組織運営に関わり、組織使命の達成のために組織分析と事業分析を行い、ミッションプロセス(中期ビジョン)を創り実行していく力を高めることを目的としたマネジメント研修を行った。

▼ 理事向けマネジメントコース

日時:5/30(水)、6/20(水)、7/25(水)、8/29(水)、9/19(水)(計5回)

場所:とちぎボランティアNPOセンターぽぽら等

内容:理事のすべきこと、中期計画の創り方、地域資源開拓と活用、組

織と外部環境分析、委託業務との向き合い方

参加人数:計78名

▼ 職員向けマネジメントコース

日時:10/16(火)、11/1(木)、12/11(火)、1/22(火)、2/12(火)(計5回)

場所:とちぎボランティアNPOセンターぽぽら

内容:NPOマーケティング I・II、プログラムの創り方、ソーシャルメ

ディアの活用、魅せる事業報告書

参加人数:計84名

▼ NPOマネジメントフォーラム

日時:3/16(土)

場所:とちぎボランティアNPOセンターぽぽら内容:これからの市民社会とNPOマネジメント

参加人数:4名





◎講師陣

【理事向け】株式会社エンパブリック広石氏、NPO法人パブリックリソースセンター岸本氏、NPO法人アサザ基金飯島氏、NPO法人ブレーンヒューマンティ能島氏、NPO法人「育て上げ」ネット工藤氏 【職員向け】NPOマーケティング研究所長浜氏、NPO法人atamista市来氏、テントセンイケダ氏、youth for3.11島田氏

【フォーラム】一般社団法人日本サードセクター経営者協会藤岡氏

実施回数:11回 参加人数:53団体166名(のべ) 活動時間:581時間(のべ) 協力者数:13名

成果

・全国的に活躍する実践者を講師にお迎えし、県内のNPOリーダーとの交流を図ることができたこととマネジメント研修のプログラム化と体系化でできた。また長期かつ有料の研修プログラムであったが、アンケートでは、満点近い結果となった。研修成果は、すぐに目に見えるものではないが、今後も参加団体の展開に注目し、発信していきたい。

課題

・当初想定していたよりも参加が少なかった。組織として取り組む団体に向けて日常的にマネジメントスキルを高める機会の継続性が課題。



栃木県新たな担い手支援事業 「中退による社会的孤立防止プラットフォーム」

大学中退後の社会的孤立・社会的空白を生まないネットワークと仕組みをつくる

中退から社会的孤立状態になっている現状認識の元、大学、行政、地域の若者支援団体が一体となり、ネットワークの構築と 支援のしくを創り、若者の社会的孤立化と社会的空白を生まない環境づくりを目的に実施。実態調整から、支援策づくり、社 会的発信など、プラットフォームを構築し運営した。

▼ 中途退学者の課題・支援検討委員会

日時:5/15、7/11、7/26、8/9(2回)、9/5、9/12、10/17、11/21、11/22、11/28、12/6、12/18、1/17、1/25、1/30、

2/27、3/13 (計18回) 場所:栃木県庁昭和館等

内容:中途退学の現状の調査・確認。支援策の検討・仕組みづくり

参加人数:計184名

▼ 中途退学者の課題・支援検討委員会報告書の発行

目的:中退問題の実態の可視化と社会化

日時:平成25年3月発行

内容: 実態調査報告、中退の課題と支援についての提言等 DL先: http://fields.canpan.info/report/detail/16838

▼大学生や中途退学者の悩みを考えるシンポジウム

目的:調査報告と中退に関わる社会的背景や支援の必要性の提起

日時:2/6(水)

場所:栃木県庁研修館講堂他

内容:事業報告・調査報告、パネルディスカッション(大学生等か

らの中途退学者アンケートより見えてきたこと)

参加人数:118名





◎「中退による社会的孤立防止プラットフォーム」構成

【大学】 宇都宮共和大学、足利工業大学、帝京大学、宇都宮大学、文 星芸術大学、作新学院大学、(計6大学) 【NPO】トチギ環境未来基地、栃木県若年者支援機構、KHJベリー会、

【NPO】トチギ環境未来基地、栃木県若年者支援機構、KHJベリー会、キャリアコーチ、とちぎ青少年自立援助センター、とちぎユースワークカレッジ、とちぎ若者サポートステーション、とちぎユースサポーターズネットワーク (計8団体)

【行政】県県民文化課、教育委員会学校教育課、県男女共同参画課、県医事厚生課、県労働政策課(計5部署)

参加人数:302名(のべ)

活動時間:764時間(のべ) 協力者数:3名

成果

・19を越える機関・団体と、課題の研究から支援策づくりまでを協働で実施し、実態調査報告書、リファーパッケージの発行、大学での情報発信機会をつくりことができた。

課題

・事業としては、一区切りになるが、このネットワークと生みだしたものを機能化されていくことが必要になる。



古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ 「 ホン de チャレンジ」



読み終えた本が寄付になり、若者による社会を良くするチャレンジをサポート

ご自宅や職場で不要になった書籍やCD、DVDを株式 会社バリューブックスが買い取り、その相当額をNPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークに寄付する プロジェクト。いただいた寄付は、社会を良くしようと 活動する若者のプロジェクトに活用しています。

栃木県内だけでなく、日本全国から多くの方のご支援を いただくことができました。誠にありがとうございます。 ※株式会社バリューブックス様との協働事業です。





2012年度寄付について







◎寄付を活用して実施したプロジェクト

社会課題解決の最前線を発信 社会事業家インタビュー5期 \cdot 2012.05 \sim 09.

・2012.11~2013.03 社会課題解決の最前線を発信 社会事業家インタビュー6期

参加者2名 参加者2名

社会事業家インタビュー (※ホンdeチャレンジのNews Letter vol.01より抜粋)

星ふる学校「くまの木」 事務局長 加納麻紀子さん

6月23日にユースインターン5期生の先陣を切って、宿泊型体験学習施設 星ふる学 校「くまの木」のインタビューを行いました。初めてのインタビューの経験に戸惑い、反省 ばかりのインタビューでしたが、今回のインタビューの趣旨でもある、社会事業家の仕事 にふれ、社会に貢献できる仕事の魅力を自分自身がとても強く感じることができました。 自分が現場で感じてきた社会事業家の魅力を、インタビュー記事を通してたくさんの 人に発信し、伝えていければと思います。

経験不足と緊張から失敗だらけの インタビューでしたが、確実に次につ なげられるいい経験になったと思いま す。今後の予定はまだ未定ですが、 栃木にもまだまだたくさん素晴らしい 活動を行っている社会事業家の方 はたくさんいらっしゃいます。これから もたくさんの方にそんなかっこいい生き 方を伝えていけたらと思います。



社会事業家交流会

(※ホンdeチャレンジのNews Letter vol.02より抜粋)

インターン生企画① 社会事業家×若者 in 宇都宮

3月20日、今までインターン生が取材し配信してきた社会事業家の方と若者をつな げる交流会を宇都宮大学のUUプラザで開催しました。当日は学生から行政職員、 企業、大学関係者など総勢21名の方々にお集まりいただき、大変な盛況となりま した。 ゲストに、はやき風株式会社より岩崎崇代表、株式会社クルール・プロジェより 阿久津智子代表の2名をお迎えし、トークセッションという形でお話いただき、その後 参加者からの質問を聞く交流会を行いました。

トークセッションでは社会課題の理解、 立ち向かう実践者の想い、地域とつ ながる楽しさなどを実感するとともに 第二部の交流会では配布した記事 で伝え切れなかった話を引き出せ、 直接出会えることの大切さ、貴重さを 実感しました。



これまでの寄付総計

期間:2011.10.01 ~ 2013.03.31







10,513 冊 👚 226,936 円

成果

・県内だけにとどまらず、全国から多くの寄付をいただき、若者のチャレンジを促進することができた。お金ではなく、手軽に出 来る新たな寄付のしくみとして、社会に発信することができた。

・このしくみをより多くの方に知ってもらい、使ってもらえる取組みが不足していた。より多くの方に寄付という参加の形を提案 できる可能性を秘めているため、こちらから積極的にアプローチする方法を検討したい。



参加者数等



★ 情報発信(年間)

Official WEB	ユーザー数(UU)	9,642
	ページビュー数(PV)	32,983
トチギ ソーシャル	ユーザー数(UU)	35,910
ニュース BLOG	ページビュー数(PV)	125,323



いいね数 306

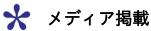


フォロワー数 435



メルマガ配信数 727

(2013.3.31現在)



提出日	媒体名	プロジェクト名	記事タイトル
2012年5月8日	読売新聞 朝刊		時評を被災者の自立へ「支援」
2012年7月24日	下野新聞 朝刊	トチギ遊学	見聞広げ栃木を楽しもう NPOが新たに連続講座
2012年9月4日	読売新聞 朝刊		時評 社会課題 解決の道とは
2012年9月13日	毎日新聞 朝刊	トチギ遊学	彼女に良いところ見せて!男性向け料理教室
2012年11月3日	読売新聞 朝刊	復興支援プロジェクト	福島の物産応援販売
2012年11月4日	下野新聞 朝刊	復興支援プロジェクト	一足お先にツリー点灯
2012年11月6日	毎日新聞 朝刊	復興支援プロジェクト	栃木復興元年 手芸品買って支援を
2012年11月25日	タウン情報誌 monmiya12月号	復興支援プロジェクト	震災復興を支援するツリーが光り輝く
2012年12月9日	朝日新聞 朝刊	iDEA→NEXT	若者のアイデアで未来を切り開こう
2012年12月17日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	未来を創るアイデア募集
2013年1月18日	毎日新聞 朝刊	トチギ遊学	男性向け料理教室番外編 ラーメン屋の歩き方
2013年1月29日	朝日新聞 朝刊	中退予防プラットフォーム	大学中退者の背景 支援策探る
2013年1月29日	読売新聞 朝刊		時評 未来つくる「芽」育てる
2013年2月26日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	グランプリに佐川さん
2013年2月26日	朝日新聞 朝刊	iDEA→NEXT	地域活性化へ若者らの企画コンテスト
2013年2月28日	下野新聞 朝刊	green drinks Utsunomiya	宇都宮の暮らしを語ろう

TEAMユースは、会員やボランティア、協賛企業・団体など、 たくさんの仲間たちに支えられて活動しています。



★ メンバーの声

困ったときは、ユースがいる!

この安心感に支えられ、チャレンジを乗りこえることができました。私は、2012年9月~12月まで 「GENBA CHALLEBGE」を通じてトチギ環境未来基地で いわきの海岸林を再生させる「苗木forいわ き」プロジェクトに関わりました。 チャレンジを終えた今、気分は最高! 達成感と一緒にたくさんのものがついてきました。経験、仲間、思い出、新しい自分、生き方のヒント。がんばって嬉しい結果が 起きたとき、「ユースに報告し なきゃ!」って真っ先に 思うんです。一緒に喜んでくれる姿をみると 「またガンバって報告するんだ!」って思います。これは私にとってとても大きなエネルギー 源でし た。かけがえのない経験をするきっかけを与えてくれたこと、心から感謝しています。 地元栃木で、ユースに出会えて本当によかった。これから関わっていくのが楽しみです!



郷間梨々加さん (プログラム参加者)



二見令子さん(賛助会員) 国際医療福祉リハビリテーションセンター ボランティアセンタ-

私が「とちぎユースサポーターズネットワーク」を応援する理由

ユースには、取り組む事業の斬新さ、若者を惹きつけてやまないプログラムの魅力があります。 アイディアプランコンテスト「iDEA→NEXT」は画期的でした。ブラッシュアップさせながらの 企画の進め方は、より若者達のチカラを醸成、「希望ある生き方」へと繋がる可能性を生むもの となっていると思います。そして何より岩井代表理事の頭脳明晰な社会を読むチカラ、未来社会 に向けてのファシリテーション力に絶大なる信頼と期待を寄せるものであります。

自分にもできるんだ!

「企画側として一緒にやりませんか?」と古河さんに声をかけてもらった時、単純に嬉しかったんですよ ね!僕にできる事があるのなら、力になりたい!そう思わせてくれました。笑顔の中、共に成長できる ユースの輪を広げていきたいです。(狐塚)

今までボランティア活動を通じて多くの人に出会って、皆さんとっても生き生きして活動しているのが印 象的でした。そんな人との出会いが醍醐味ですね。

自分も負けずに一歩を踏み出していきたいです。(山本)

-スの活動に参加することで、様々な人や新しいコトに出会い、多くの刺激をもらいとても勉強になり ますし、なにより楽しいですね。これからもいろんな活動に参加していきたいです。(奥田)



狐塚寿浩さん(左)、 奥田裕之さん(右)、 山本真吾さん(中央) (ボランティアスタッフ)



💥 支えてくださっている団体・企業のみなさま

賛助会員

株式会社キッズコーポレーション NPO法人トチギ環境未来基地 一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター 有限会社ドンカメ 株式会社ビルススタジオ

iDEA→NEXT協賛

一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター シーデーピージャパン株式会社 企業組合とちぎ労働福祉事業団 株式会社クルール・プロジェ 株式会社キッズコーポレーション 株式会社ファーマーズ・フォレスト 有限会社ドンカメ 株式会社ミヤプロ 株式会社エスコ 株式会社五光 宇都宮店

NPO法人キャリアコーチ 株式会社サムライトサムシング 株式会社オーリアル 株式会社小金建設 株式会社河原土建 有限会社国分寺産業 有限会社ウィンウィン 財団法人栃木県青年会館

(敬称略)

★ 活動計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで (単位:円)

	NPOマネジメント	中退予防	ユースチャレンシ゛	トチギ遊学	アイテ゛アネクスト	ゲンチャレ	復興販売	事務局	合 計
【経常収益】									
会費収入								252,000	252,000
受取寄付金					149,000	79,000		265,700	493,700
協賛金収入					180,000				180,000
助成金等収入			2,970,000						2,970,000
委託費収入	2,000,000	3,000,000		48,000					5,048,000
参加費収入	220,500			105,600	290,000	44,500		95,750	756,350
その他事業収入							259,920	2,100	262,020
受取利息収入								899	899
雑収入								109,560	109,560
経常収益 計	2,220,500	3,000,000	2,970,000	153,600	619,000	123,500	259,920	726,009	10,072,529
【経常費用】									
事業費									
人件費	1,121,400	1,972,000	1,480,000					2,112,681	6,686,081
その他経費	879,158	1,028,071	1,499,253	142,592	625,587	39,069	245,522	138,032	4,597,284
事業費 計	2,000,558	3,000,071	2,979,253	142,592	625,587	39,069	245,522	2,250,713	11,283,365
管理費									
人件費									
その他経費								1,188,657	1,188,657
管理費 計								1,188,657	1,188,657
経常費用 計	2,000,558	3,000,071	2,979,253	142,592	625,587	39,069	245,522	3,439,370	12,472,022
	NPOマネジメント	中退予防	ユースチャレンシ゛	トチギ遊学	アイテ゛アネクスト	ゲンチャレ	復興販売	事務局	合 計
当期経常増減額	219,942	-71	-9,253	11,008	-6,587	84,431	14,398	-2,713,361	-2,399,493
当期正味財産増減額	219,942	-71	-9,253	11,008	-6,587	84,431	14,398	-2,713,361	-2,399,493
前期繰越正味財産額									3,089,08

*

賃借対照表

2013年3月31日現在 (単位:円)

	資産の部				負債の部		
科目	当年度	前年度	対比	科目	当年度	前年度	対比
【流動資産】				【流動負債】			
(現金・預金)				未払金	800,962	5,870,279	-5,069,317
現金	0	537,575	-537,575	預り金	89,069	123,056	-33,987
普通預金	549,051	7,915,841	-7,366,790	短期借入金	1,050,932	0	1,050,932
郵便振替口座	141,500	0	141,500	流動負債 計	1,940,963	5,993,335	-4,052,372
未収金	1,500,000	189,000	1,311,000				
流動資産合計	2,190,551	8,642,416	-6,451,865				
				負債の部合計	1,940,963	5,993,335	-4,052,372
【固定資産】					正味財産の部		
(投資その他の資産) 【正味財産】							
敷金	440,000	440,000	0	正味 財産	689,588	3,089,081	-2,399,493
投資その他の資産 計	440,000	440,000	0	(うち当期正味財産増加額)	-2,399,493	1,660,063	-4,059,556
固定資産合計	440,000	440,000	0	正味財産 計	689,588	3,089,081	-2,399,493
				正味財産の部合計	689,588	3,089,081	-2,399,493
資産の部合計	2,630,551	9,082,416	-6,451,865	負債・正味財産の部合計	2,630,551	9,082,416	-6,451,865



財務に関する分析

これまでの活動から社会を良くする若者をサポートする活動へ特化し、専属のスタッフを2人置くなど基盤づくりへの投資となった1年。

「収入」は、当初予定していた委託事業が実施中止となり、大きな赤字となったが、昨年までの資金により、事業を継続・推進できた。昨年に引き続き、委託・助成事業が8割を占めており、早急に自主事業の構築と会費・寄付金のボリュームアップが求められている。特に公費・寄付金は、より多くの方に活動に携わってもらい、共に課題を解決していくためにも重要な指標となる。会員数は昨年の59人/社から44人/社となり、数値的には減少しているが、法人の賛助団体や協賛団体が増えてきている。更に共感者を増やしていきたい。

「支出」は、当初の予定通りだが、ほとんどが人件費や 固定費であったため、収入が大幅減したことで、「収 支」は▲約240万円となった。

次年度はベースができつつある自主事業を伸ばすことで 収入を確保し、若者の成長と地域での活動を促進する取 り組みを継続的に実施していく環境を整えたい。



2012 ANNUAL REPORT 2012.04.01 - 2013.03.31

Tochigi Youth Supporters Network* NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F TEL/FAX: 028-612-3341 MAIL: ysn_office@tochigi-ysn.net

WEB: http://www.tochigi-ysn.net

Twitter: @youth_tochigi

Facebook: tochigiysn / とちぎユースサポーターズネットワーク